

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な人々が集う定時制の課程で、勉強がわかる喜び・人に認められ人と理解し合える喜び・夢や志を抱く喜びを伝え、生徒たちに生き生きとした生活を保障する学校をめざす。

1. 生徒が自分の未来を創造できる学校
2. 生徒一人一人が大切にされる安全で安心な学校
3. 地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校

2 中期的目標

1 勉強がわかる喜びを伝える

(1) 授業内容が「分かること」の楽しさを体験することで、「学ぶこと」に意欲をもつ生徒を育てる。

ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。

- ① 生徒の学力に応じたわかりやすい教材を作成し授業を行う。
- ② ICTや視覚教材を用いた授業および参加体験型の授業を導入し、生徒の学習意欲を高める。
- ③ 授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。

※学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率 (H29:78%・H30:77%・R1:78%) をR4年度には85%とする。

イ 授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。

※学校教育自己診断の「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率 (H29:64%・H30:73%・R1:58%) をR4年度には70%にする。

ウ ア、イを実践した結果として、授業に出席する生徒を増やし、中退防止につなげる。

(2) 授業において、図書室の利用を促進する。

2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える

(1) 命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。

ア 生徒指導時のみならず、教科の学習およびHR・総合的な学習の時間、行事等も含めた教育活動全体を通して指導する。

※生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定率 (H29:79%・H30:83%・R1:75%) をR4年度には85%にする。

(2) 様々な教育活動で人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。

ア 挨拶ができる生徒を育てる。

イ 生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。

ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。

エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。

※学校行事等で来校する学校外部の人の数を、前年度より増やす。

(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。

※保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率がR4年度にかけて毎年85%を下回らないようにする。(H29:86%・H30:77%・R1:85%) をR4年度には85%

(4) 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、フォローアップコーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整え、H31年度までに、文部科学省が公表する平成30年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の9.4%以下を目標とする。

※中退率 H26年度 20.6% → R4年度末 9.4%にする。

3 夢や志を抱く喜びを伝える

(1) 生徒が自己の将来について考え、自らの生き方を選択できるように進路指導の充実を図る。

ア 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。

イ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。

ウ 就業体験をする生徒を増やす。

※卒業生徒の進路決定率 (H29:73.2%・H30:60%・R1:61%) についてR4年度は65%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の問 (No. 15, 16) の平均肯定率 (H29:80%・H30:80%・R1:75%) をR4年度には85%にする。

4 組織の活性化と人材育成

(1) 首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む。

(2) 職務の効率化の取組み

※年間時間外勤務 → 360h 以内

(3) コンプライアンス意識の向上

(4) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析（令和2年12月実施分）	学校運営協議会からの意見
<p>強がわかる喜びを伝える ※データは全て肯定率 〈生徒〉 ・学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材も使うなどの工夫をしている。 R184% → R2 85% ・学校の授業の内容に、ついていける。 R1 75% → R2 76% ・学校の授業の説明は、わかりやすい。 R1 78% → R2 80% ・学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。 R1 58% → R2 67% 大半の教員が ICT を活用し、学力に応じた教材の提供、わかりやすい授業づくりに取り組んでいる。また、携帯指導や巡回指導を引き続き実施した。その結果として、授業中の状況が大きく改善され、勉強がわかる喜びを感じる生徒が高い割合となっている。</p> <p>〈保護者〉 ・「学校に行くのは楽しい」と子どもが言っている。 R1 65% → R2 76% ・「学校の授業は、わかりやすい。」と子どもが言っている。 R1 74% → R2 84% ・「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」と子どもが言っている。 R1 50% → R2 70%</p> <p>保護者より、生徒の学校での学習活動についての評価が大幅に高くなった。これは、教員が一体となって、わかりやすい授業づくり、生徒へ寄り添う指導、授業規律の確立等を努力した結果が評価に反映されている。</p> <p>人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える 〈生徒〉 ・体育祭、文化祭などの学校行事は、みんな楽しい。 R1 74% → R2 72% ・学校生活についての先生の指導については理解できる。 R1 75% → R2 79% ・学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。 R1 72% → R2 70% ・命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。 R1 75% → R2 82%</p> <p>学校行事については、新型コロナウイルス感染症の影響により日程変更・中止のため、クラス内での人間関係の構築が遅れていること、準備期間が不足したこと、保護者等に入場制限があったことなどが起因していると考えられる。</p> <p>人権 HR や外部講師による講演会等の結果、高い数字が出ている。</p> <p>〈保護者〉 ・学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。 R1 88% → R2 83% ・学校の生徒指導の方針は、理解できる。 R1 86% → R2 87% ・学校は、命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて、考えさせる機会を作っている。 R1 82% → R2 84%</p> <p>先生との関係についても人間関係の構築が遅れていることに起因している。次年度も全教員で生徒へ寄り添う指導を継続していく。</p> <p>夢や志を抱く喜びを伝える 〈生徒〉 ・ホームルームなどで、自分の将来について考える機会がある。 R1 82% → R2 80% ・外部（学校外）の講師による講演会は有意義だと思う。 R1 66% → R2 71% ・学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。 R1 79% → R2 84%</p> <p>肯定率が下がった項目もあるが、新型コロナウイルス感染症による休校の影響により進路指導にかける時間が減少したが、進路保健部・学年団が計画的に指導を行い、外部指導者なども活用した結果、肯定率は大きく上がった。生徒たちの意識を高めることができた。次年度も進路保健部・担任が一体となって指導を進めていく。</p> <p>〈保護者〉 ・学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている。 R1 82% → R2 87%</p> <p>保護者からは進路指導に対して高い評価を得ている。</p> <p>〈保護者・全般〉 ・学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。 R1 85% → R2 93% ・本校に通学することで、日常生活により影響を与えているように思われる。 R1 92% → R2 96% ・子どもは、以前と比べるとあいさつをするようになったと思う。 R1 81% → R2 81%</p> <p>今年度メール連絡網を整備し、生徒・保護者への連絡を密にしたことで、家庭との意思疎通がはかれていると、高い評価を受けることができた。日頃からの本校の教育活動についての関心が高まり、総合的に高い評価を受けることができた。</p>	<p>第1回 令和2年7月17日（金）実施</p> <p>【授業見学の感想】 ・説明がわかりやすく、生徒が集中して授業を受けていた。 ・授業のめあてが黒板に掲示されていて、分かりやすかった。 ・チョークの色の使い分けが、わかりやすく良かった。 ・先生の分かりやすい授業をしようという熱意が伝わる授業だった。オンライン授業では伝わらない、生の授業の価値を感じた。</p> <p>① 授業がわかる喜びを伝える 提言・意見 ○引き続き、分かりやすい授業を生徒たちに提供してもらいたい。 ○教員は授業力向上が大切で、研鑽を積める環境づくりを進めてもらいたい。 ○学ぶことが生きる上で、なぜ必要なのかを教えてあげてほしい。</p> <p>② 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える 提言・意見 ○学校再開後のアンケートで、「やる気が出ない」や「眠れない」という回答数が多く、新型コロナウイルスによる生徒らへの影響は大きいものだと感じる。メンタル面のケアをしてあげて欲しい。 ○コミュニケーション能力の向上と人権教育の重要性を伝えてほしい。</p> <p>③ 夢や志を抱く喜びを伝える 提言・意見 ○生徒の将来について可能性を広げてあげてほしい。 ○コロナウイルスの影響で就職状況も厳しくなっているので、生徒は不安だと思う。それぞれの進路に何とかつなげてあげてほしい。</p> <p>第2回 令和2年11月20日（金）実施</p> <p>① 第1回 授業アンケート結果 提言・意見 ○生徒から「どんな授業なら受けたいと思うか」「どんな授業は受けたくないか」を掘り起こしてみよう。 ○これからの授業は従来の教員から生徒への一方向の授業ではなく、対話的な学びが求められるので、今後はそういった取り組みを、積極的に取り入れてもらいたい。 ○少人数で授業を受けられることは、生徒にとって、内容を理解するのに重要な要素であると思われる。</p> <p>② 行事について、図書室の利用人数について 提言・意見 ○図書室の利用が増えているのは、大変良いことであり、図書室だけでなく、学校周辺の図書館の紹介などをすること本を読む生徒が増えてほしい。</p> <p>③ 進路関係の説明について 提言・意見 ○コロナ禍の大変な時に進路を決めていかないといけないう状況ではあるが、何とか希望の進路につなげてあげてほしい。</p> <p>第3回 令和3年3月12日（金）書面にて</p> <p>① 全般 提言・意見 ○小早川校長先生、着任1年め、ご苦労様でした。 コロナ禍の中、教職員の皆様はもちろん、生徒たちにとっても困難や戸惑いがあったことと思う。行事の縮小は得てして学習意欲の低下につながりますが、教職員一丸となった「学校力」向上の取組みで、「授業力」「指導力」に関する生徒・保護者からの学校評価は年々高まりつつあり、喜ばしいことだ。教職員の皆様に敬意を表す。「学校力」向上の取り組みに期待したい。 ○この一年間、教育課程はもちろん、様々な学校行事や研修が変更の連続で、教育現場は本当に大変だった。そのような中、体育祭や文化祭の準備や開催も並々ならぬ努力や工夫を強いられたと思うが、無事に実施され何よりだ。中学校も同様に、十分な実践ができなかったと悔やまれる年度となったが、逆にこういった状況にならなければ見えなかった課題、思い切ってできなかった改革が現実とせまり、立ち止まって考えることができたことは、貴重な1年になったと振り返る。 ○資料を見て、常に生徒一人ひとりに寄り添う高校であることや、学年末の様子が</p>

よくわかりました。

② 第2回授業アンケートについて

提言・意見

- どの結果も今回が最高だったのは、先生方が授業内容をわかりやすいように工夫された結果である。わかりやすい授業づくりに向けた取組み（ICT活用等の教材の工夫・授業見学・授業規律の確立・生徒との信頼関係構築等の成果として、高く評価できる。今後においては、それぞれの項目の向上をめざしつつも、少なくとも大幅なマイナスにならないように現状維持をお願いしたい。
- R元年7月の急激な落ち込みの後、R元年12月、R2年7月、R2年12月と進むにつれ、年々生徒からの評価が高くなっていることに安堵するとともに、先生方の地道な取組みがこの裏にあったことが、「考察」からも伺えることに感謝する。生徒にとって「分かる授業」が「学ぶ意欲」につながり、「生きる力」になってくるので、引き続きの取組みをお願いしたい。
- 家庭学習期間を経験した生徒たちが「目の前で説明してくれる授業を受けることができるのは楽しい。わかりやすい。」と感じたのではないかと考えた。
- 素晴らしい結果である。特に、「生徒の授業中の取組み」について「3.71」の数値は、かつて学びに対して少なからずの課題を抱えていたと考えると、生徒自身の意識向上の結果を示すものである。
- 集中力が持続しにくい生徒にたいしてもわかりやすく説明し、全体的に学力向上につなげている。

③ 学校教育自己診断の結果や学年の様子について

提言・意見

- コロナ感染症防止による様々な規制や制約のある中、授業アンケートをはじめ、学校教育自己診断で、生徒や保護者から肯定的な回答が得られたのは、日々の教育活動の成果であると考えます。
- 良好な結果は、准校長はじめ、全ての教職員の方々の日頃からの実践努力の賜物と敬意を表す。
- 生徒・保護者からの高評価は、学校信頼の表れである。
生徒にとって、①学校へ行くのが楽しい、②授業が分かる、③行事が楽しい、の3点がポイントではないかと思う。①の60%台は気になるところだが、②と③は70%台にあり、全体的にいい評価を得ていると思った。「命」「安全」に関わる項目に高い評価があるのも先生方の取組みの成果の表れだと思う。保護者の評価も全体に好意的で学校の信頼度の高さが感じられる。
「分析」については、コロナ禍の中、大変だったことが伺える。「行事」での評価減は仕方がない。そんな中でも保護者からは「授業は落ち着いている」と20%増の高評価を得ているのはうれしいことだ。
- ゼロ時限め、土曜講座を受けてみたいという割合が増えるには、どういう働きかけをすればよいか、すぐに良い案は思い浮かばなかった。基礎的な知識を得たり、楽しく校外学習をすることで単位が得られるのであれば、肯定的な考えの方が多いと思ったのだが、、、具体的にどのような講座、見学が行われてきたのか、またお聞きしたい。
- 図書貸し出しが増えているとのことで、これからも授業等で工夫していただき、本に触れる機会を増やして行ってほしい。図書室が心地良い居場所となるようよろしくお願いいたします。

④ 分掌チャレンジのまとめについて

提言・意見

- 学校経営計画に基づいた取組みを各分掌で、しっかりと分析・チェックされることがよくわかる。内容を教職員間で共有して次年度の方策につなげていってもらいたいと考える。
- 今年度ならではの課題（コロナによる影響）が浮き彫りになったと思うので、来年度の方掌チャレンジに活用していただくようお願いする。就業率50%と下がっている現状については、心が痛いところである。
- 教務関係は、分かる授業に教職員の創意・工夫がみられる。コロナ禍での休校・分散登校もある中で、ICT機器の活用や教材の工夫、授業研究を行うなど指導力向上に取り組み、「分かる授業」に教職員一丸となっているのが分かる。
- 生徒指導に関しては、同じ価値観を持つ指導が活かされていることがわかった。学校として同じ価値観で指導することは、当然ではあるが、これがなかなか難しい。そんな中、職員会議や新任研修などで意思統一するなど、教職員が一致して指導する体制ができていることは喜ばしいことだ。
コロナ禍での行事への取組みが、生徒にとって大きな期待減となったことは、一人寝屋川定時制だけの問題ではない。この経験・体験を新たな飛躍へと転換する発想で、生徒も教職員も前向きにとらえて今後へとつなげていただきたいと思う。
- 困難を抱える生徒たちへの支援について、100%支援は目標、目の前の生徒に寄り添っている。不登校生徒、長期欠席者、障がい配慮生徒、日本語指導が必要な生徒等、支援の中身は多種多様である。少ない教職員の中で100%対応は目標にして、SSW、SC、養護教諭を中心とした体制で、一步一步目の前の生徒の悩みを大事に取り組んでほしい。こころや体のしんどさに悩みながらも、それでも学びたいという意欲を持って入学してきた生徒たちです。

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

- 励まし寄り添っていただきたい。
- 進路指導に関しては、「終わりよければ全てよし」の気構えで。「進路通信」の発行、「就職セミナー」の開講、「進路ガイダンス」の開催など、コロナ禍での時間制約の中、よく頑張っていたと思う。
「昨年度より早いペースで進路が決定している」ことは喜ばしいことだ。ただ、コロナの影響で企業の募集停止が響いている中、一人でも多くの生徒の就業支援に一層取り組んでいただきたい。
 - 組織の活性化と人材育成について、働きやすい職場は人を活性化させる。学校は今やブラック企業かと言われるくらい厳しい労働環境に置かれている。大学卒業生の教員をめざす割合が減少しているというニュースに驚くばかりだ。そんな中、「時間外勤務を軽減」の目標は、教職員にとって最も安心できる職場環境になると思う。パワハラ・セクハラ・マタハラ等の研修を含め、学校コンプライアンスの研修に一層取り組み、安心して働ける職場に心していただきたいと思う。
 - タブレットの特性に合うものを見極めて利用することが効果的だと思う。
・考えるための下準備となるデータを効率よく得て、時間短縮を図る。
→「調べる」のみで終わらず、そこから発展させて「対話型の学び」につなげる。
・動画教材を利用して頭の中でイメージを作りやすくする。→ 動画を一から作るのは手間も時間も必要なので「NHK for school」などを利用する。小学校6年生教材ではありますが『歴史にドキリ』は歌やダンスを取り入れてインパクトがあり、面白くて好きだ。
 - コロナ以降、民間企業では資料を作る等の作業チームを立ち上げ、ネットワークを利用して業務の生産性向上を図るといった動きが広がっているようだ。具体的には、クラウドを利用したフリーソフトを使って「コンピューター共同編集」をしています。（例えば、無料のGoogle ツールです。）ID・パスワードを持つメンバーが一つの資料にログインし、複数メンバーによる書き足し・削除・変更・コメント・注釈をつけるなどが好きな時に可能になる。ネットワークの利点を大いに活用し、学年や委員会等多方面にわたる書類作成の場合、「メンバーが」「自分のできるタイミングで」「自分の関係部分を作る」→「整合性を互いにチェック」という手順を取ることで時間の短縮に繋がるのではないかとと思う。
 - 首席が中心となり、人材育成や新たな企画にも取組まれ、動画配信サービス視聴させていただいた。わかりやすく良かった。
 - 感染拡大が報道されている時期だったので11月の修学旅行が無事に行われたのかと心配していたが、ホームページで「行ってきました」という記事を読んでほっと安心した。予定変更で先生方は大変だったと思う。ご苦労様でした。

⑤ 令和2年度学校経営計画及び学校評価について

提言・意見

- 生徒たちが、日々の授業や学校行事そして進路実現に向けて、主体的に参加・活動する「考える力」を発揮できるようにご尽力をお願いしたい。
- 一つひとつ丁寧なコメントを出されており、わかりやすいものであった。中退率が大きく減少していること、コグトレ教員研修を実施されたと聞いたが、その継続した取り組み成果が今後の学力向上や生徒の自己肯定感の向上につながるものと確信する。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染が世界中に拡大し、様々な日常生活が制限され大変な状況だった。学校行事も中止や縮小となり、例年通りにならなかった。緊急事態宣言時の授業対応も、当初は手探り状態で混乱も見られたが、現在は適切な距離を取りながらのコミュニケーションを工夫し、リモート授業に向けての準備を行っているので、学校生活もスムーズに行われていると感じている。
- 体育祭や明月祭は、打ち合わせや練習が不十分だったが、生徒と先生の工夫と努力で用意できたことは、とても良かったと思う。次年度はこの状態が続かないとは言えないので、早めにコロナ禍での学校行事について、計画を立てることができればと思う。

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 勉強がわかる喜びを伝える	<p>(1) 「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり</p> <p>ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る</p> <p>イ 授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。</p> <p>ウ ア、イを実践した結果として、生徒の授業への出席率を増やし、中退防止につなげる。</p> <p>(2) 授業において、図書室の利用を促進する。</p>	<p>ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに向け以下の点に取り組む。</p> <p>①・授業の目的や大切なポイントを説明する ・授業ではわかりやすい説明をする。 ・授業中に生徒の知識・技能の定着をはかるための時間を取る。</p> <p>②・生徒の学力に応じた教材の作成や補助教材 (ICT や視聴覚教材) の使用等により工夫して授業を行う。 ・教材は共有し、教材作成の負担軽減を図る。 ・授業の中で生徒に考えさせる時間を取る ・授業の中で生徒にコミュニケーション能力が身につく仕掛けづくりをし、生徒とコミュニケーションを取る。</p> <p>③・授業見学、研究授業、研修等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。</p> <p>イ・授業規律を確立するために、教職員が一丸となって生徒への指導を図る。 ・授業中の携帯電話指導を継続する。</p> <p>(2) 授業において図書室利用することで、生徒の利用を促す取り組みをする。</p>	<p>ア</p> <p>①・学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率を3%上げる (R1, 78%) ・授業アンケート「先生はわかりやすく説明してくれる」の学校平均を0.05上げる (R1, 3.51) ・「授業内容に興味関心を持つことができた」の学校平均を0.05上げる (R1, 3.34) ・「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の学校平均を0.05上げる (R1, 3.36)</p> <p>②・学校教育自己診断で「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている」の肯定率を3%上げる (R1, 84%) ・授業アンケート「先生は様々な教材を工夫して授業を行っている」の学校平均を0.05上げる (R1, 3.45) ・「先生は授業中生徒とコミュニケーションを取っている」の学校平均を0.05上げる (R1, 3.48)</p> <p>③・年2回以上研究授業や授業研修を行う</p> <p>イ ・「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている」の学校平均を0.05上げる (R1, 3.48) ・授業アンケート「私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない」の学校平均0.05上げる (R1, 3.45) ・学校教育自己診断で「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率を5%上げる (R1, 58%)</p> <p>ウ・R1年度中退率: 1月末 (5.3%) より <u>1%</u>下げる。</p> <p>(2) ・図書館の利用者を増やす。(R1, 1, 112人)</p>	<p>(1) ア</p> <p>① ・学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率は80%と2ポイント上がるに留まったが、授業アンケート「先生はわかりやすく説明してくれる」の学校平均については3.60と0.09上がった。(○) ・「授業内容に興味関心を持つことができた」の学校平均は3.46と0.12上がった。(○) ・「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の学校平均は3.44と0.08上がった。(○)</p> <p>② ・学校教育自己診断で「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている」の肯定率は85%と1ポイントの上昇に留まったが、授業アンケート「先生は様々な教材を工夫して授業を行っている」の学校平均については3.58と0.13上がっている。(○) ・「先生は授業中生徒とコミュニケーションを取っている」の学校平均は3.61と0.13上がっている。(○)</p> <p>③ 定時制の授業見学を1回、全日制の授業見学を1回、研究授業を1回実施した。(○)</p> <p>イ ・「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている」の学校平均は3.56と0.08上がった。(○) ・授業アンケート「私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない」の学校平均は3.64と0.19上がった。(○) ・学校教育自己診断で「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率は67%で9ポイント上がった。(◎)</p> <p>ウ・中退率(1月末現在)2名で0.8%と大幅に減少した。(◎)</p> <p>※生徒の学校教育自己診断については一部目標とした数値は達成できなかった。授業アンケートについては、すべての項目で目標の数値を達成することができている。 全般的には生徒からは、高い評価を受けることができている。次年度についても引き続き取り組む。</p> <p>(2) ・図書館の利用者は4.5月緊急事態宣言のために休校であったにもかかわらず、1465名となっている。(○)</p>

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

<p>2 人に認められ、人と理解しあえる喜びを伝える</p>	<p>(1) 基本的な倫理観や規範意識を育てる。 ア 教科の学習およびHR・総合的な学習の時間・総合的な探究の時間等も含めた教育活動全体を通じた指導</p> <p>(2) 人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ア 挨拶ができる生徒を育てる。</p> <p>イ 生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる</p> <p>ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。</p> <p>エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。</p> <p>(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。</p>	<p>(1) ア・全教職員がすべての教育活動を通して、また、外部人材等を有効活用し HR 及び総合的な学習の時間・総合的な探究の時間を計画的に実施することで、「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さ」について考える機会を設ける</p> <p>(2) ア ・教職員から生徒への挨拶運動をさらに進め、挨拶をすることの大切さについて生徒に伝える機会を設ける。 ・始業・終業時に挨拶ができるようにする。</p> <p>イ ・生徒を中心とした生徒会行事の企画運営を行う。 ・行事に参加する生徒の人数を増やす。</p> <p>ウ ・各種行事に対する広報活動の活発化 ・体育祭・文化祭へ地域の方を招待する。 ・「授業参観日」の名称を「授業見学会」に変更し、期間を3日間開催し、保護者・地域住民・地域の中学校教員等に積極的に参加を呼び掛ける。</p> <p>エ ・ボランティア活動の継続 ・部活動の活性化をする。</p> <p>(3) ・生徒に対し傾聴し、理解し、話し合いによる指導を実践する。 ・各教員が家庭連絡を密にする。 ・HP 等で学校の情報を発信する。</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心に SC や SSW とともに、困難を抱える生徒への支援体制を整え、生徒個々に対応した指導をおこなう。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率を3%向上させる (R1, 75%)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の「自分は挨拶をしている」の肯定率を5%向上させる。(R1, 69%)</p> <p>イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率を3%上げる。(R1, 74%) ・行事の生徒参加率を体育祭、文化祭ともに50%以上に保つ。(R1, 体育祭 58, 5%, 文化祭 58%)</p> <p>ウ・体育祭、文化祭に来校する保護者、地域住民、中学校教員等の人数を前年度より増やす。(R1、合計 293 名)</p> <p>エ・ボランティア活動の継続 ・部活動加入率 (R1, 35%) を3%増加させる。</p> <p>(3) ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率を3%上げる (R1, 75%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が85%を下回らないようにする。(R1, 85%)</p> <p>(4) 中退率を1%下げる。(R1, 5, 3%)</p>	<p>(1) ア ・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率は83%で8ポイント上がった。(◎)</p> <p>(2) ア ・学校教育自己診断の「自分は挨拶をしている」の肯定率は71%で2ポイント上がったものの目標には届かなかった。(△) ・上昇は2ポイントに留まった、次年度は自分から挨拶ができるよう次の段階に指導を進めていく。</p> <p>イ ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率は72%で2ポイント下がった。これはコロナウイルス感染症対策のため、学校行事の中止、日程変更に加え準備期間の不足が大きく影響していると考えられる。(○) ・行事の参加率は体育祭 59.7% 文化祭 59.7%となっている。(○)</p> <p>ウ・コロナウイルス感染症対策のため体育祭は入場禁止、文化祭は保護者のみに限定したため、比較ができない。(一)</p> <p>エ ・ボランティア清掃を4回計画したが、コロナウイルス感染症の影響による行事予定変更と雨天のため、2回実施した。第1回参加者は、生徒40名、保護者1名、教員。第2回参加者は生徒36名、教員となっている。(○) ・部活動加入率は30%(12月末現在) 新型コロナウイルス感染症による長期休校の影響により新入生へ部紹介が実施できず、加入率が下がっていると考えられる。(○)</p> <p>(3) ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率は79%で4ポイント上がった。(○) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率は93%で8ポイント上がった。(◎) ・メール連絡網を整備し、積極的に配信した。情報が速やかかつ正確に届き、学校から家庭への連絡や意思疎通が密になった。その結果、昨年の肯定率を大幅に上回った。次年度も家庭との関係をより一層密にしていく。</p> <p>(4) 中退率(1月末現在)2名で0.8%となっており、大幅に減少した(◎)</p>
------------------------------------	--	---	---	--

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

<p style="text-align: center;">3 夢や志を抱く喜びを伝える</p>	<p>(1) 進路指導の充実を図る。</p> <p>ア 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。</p> <p>イ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。</p> <p>ウ 就業体験をする生徒を増やす。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路 HR や総合的な学習の時間を進路指導計画の中で明確に位置づけ、情報提供を行う。 外部機関や卒業生と連携し、生徒が色々な人の生き方に触れる機会を設ける。 生徒に提供した情報が保護者にも届くようにする。 <p>イ・担任が生徒と十分話し合うとともに、担任が進路担当者との連絡を密にする。</p> <p>ウ・一人でも多くの生徒が充実した就業体験ができるように指導する。</p>	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定率を3%上げる。(R1, 70%) 学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率を3%上げる。(R1, 79%) 保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率を85%にする。(R1, 82%) 卒業生の進路決定率を65%以上にする。(R1, 61%) <p>ウ・生徒の5月時点の就業率よりも年度末の就業率を5%高くする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定率は80%で10ポイント上がった。(◎) 学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率は84%で5ポイント上がった。(○) 保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率は87%で3ポイント上がった。(○) 卒業生の進路決定率は64%だった。新型コロナウイルスの影響が大きかったが、ほぼ目標を達成した。(○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症のためアルバイトの解雇などにより減少している。(△) 生徒、保護者ともに新型コロナウイルス感染症により、進路指導にかかる時間が減少したにもかかわらず高い評価をしている。次年度についても引き続き取り組む。
<p style="text-align: center;">4 校内組織の活性化と 人材育成</p>	<p>(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取り組み</p> <p>ア 首席を中心に経験年数の少ない教員の育成に取り組む</p> <p>イ 時間外勤務を軽減させ、自身の健康について管理する。</p> <p>ウ コンプライアンスについて意識を高め徹底する</p> <p>エ 危機管理意識・防災教育や保健・安全・衛生管理意識を高め、校内で体制を組み取り組む。</p>	<p>ア・首席が中心となり、経験年数の少ない教員の育成を主眼とした研修を計画し、実施する。</p> <p>イ・職務が勤務時間内に終えるよう、効率的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らが、健康管理をしっかり行い、心身共にリフレッシュできる環境をつくる。 <p>ウ・職員会議等において、不祥事の防止、個人情報の適正管理、職場のハラスメントの防止について周知徹底を図る。</p> <p>エ・校内において体制を組み、マニュアルを作成し全教職員に周知し対応できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、教員研修を計画し、実施する。 	<p>ア・年間を通して育成のための研修が2回実施できたか (R1, 2回)</p> <p>イ・年間を通して時間外勤務を360h以内にする (R1, 全教職員が360h以内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、計画的に年次休暇・振替休暇の取得を行う。 心身が健康で過ごせるよう、職場において他の者へ相談できる体制を自らつくる。 <p>ウ・不祥事、個人情報の漏洩・職場のハラスメントの事象を0件にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 万が一事象が発生した場合は、直ちに管理職に報告をする。 <p>エ・年間を通して1回教員研修を実施できたか。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で大幅な行事予定の変更をせざるを得なかったため日程を設定できず、開催は1回となったが、目標は達成できたと考える。(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、全教職員の時間外勤務が(152)h (◎) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 答案誤廃棄事象が発生した。(△) 事象発生後は速やかに対処した。 今後二度とこのような事象を発生させないよう、管理方法の見直しを実施し、教職員の意識を高めていく。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 危機管理・防災マニュアルを作成した。9月には教員研修を実施し、危機管理意識・防災教育や保健・安全・衛生管理意識を高めた。(○)